



## はじめに

---

- [Expressway について \(1 ページ\)](#)
- [このマニュアルについて \(6 ページ\)](#)
- [サービスセットアップウィザードについて \(サービス選択ページ\) \(13 ページ\)](#)

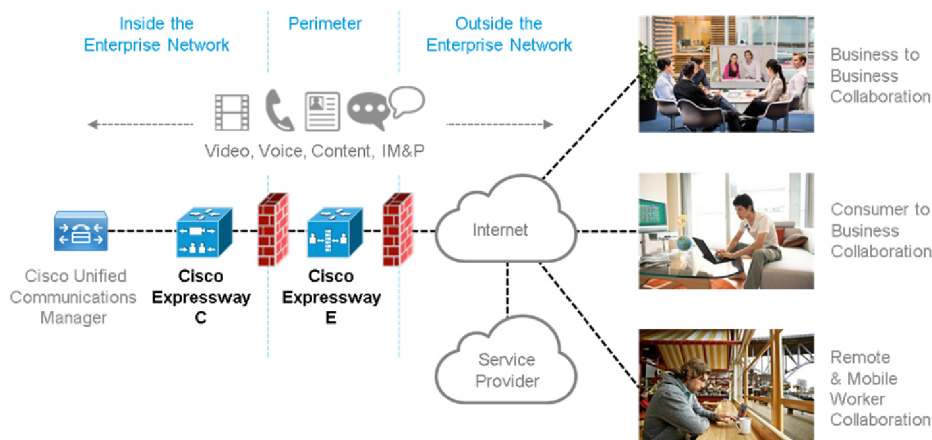
## Expressway について

Cisco Expressway シリーズ (Expressway) は、幅広いコラボレーションサービスを目的として特別に設計されています。Cisco Expressway は、確立されたファイアウォールトラバーサルテクノロジーを採用し、従来のエンタープライズコラボレーションの境界を再定義します。当社の Any-to-Any コラボレーションのシスコのビジョンに対応しています。

Expressway の主な機能と利点は次のとおりです。

- 高度にセキュアなファイアウォールトラバーサル技術を提供します。
- 企業間、ビジネス対コンシューマ、およびビジネス対クラウドサービスプロバイダーの接続を容易化します。
- 個別の VPN クライアントを必要とせずに、リモートワーカーのコラボレーションサービスへのセッションベースのアクセスを容易にします。
- スマートフォン、タブレット、デスクトップ用の Cisco Jabber により、幅広い範囲のデバイスをサポートします。
- リモートおよびモバイルワーカーのための個人所有デバイスの持ち込みの戦略やポリシーを補完します。

典型的な Expressway は、Unified CM へのトランク側と回線側の接続を備えた Expressway-C と、DMZ に配置して Expressway-C へのトラバーサルゾーンを設定する Expressway-E のペアで展開されます。



Expressway は CE12100 などの専用物理アプライアンスで使用することも、Cisco UCS サーバ上で仮想マシン (VM) として使用することもできます。

## Expressway のタイプ

各 Expressway はさまざまな機能を提供する 2 つのタイプのいずれかとして設定できます。

### Expressway-C

Expressway-C は、エニーツーエニーのエンタープライズ規模の会議およびセッションの管理機能、およびインターワーキング機能を提供します。Session Initiation Protocol (SIP) 準拠のエンドポイントや H.323 準拠のエンドポイント間でのインターワーキングや、サードパーティ製エンドポイントとのインターワーキングが可能になり、テレプレゼンス会議の対象範囲が広がります。Unified CM と統合すると、サードパーティ製 IP 構内交換機 (IP PBX) ソリューションをサポートすることができます。Expressway-C により、ルーティング、ダイヤルプラン、および帯域幅使用率の定義などを含む、クリエイティブなセッション管理に必要なツールが実装されると同時に、組織レベルの要件に合わせてカスタマイズされたコール管理アプリケーションの定義が可能になります。

### Expressway-E

Expressway-E は Expressway-E と一緒に導入され、社外とのスムーズなビデオ通信を簡単かつ安全に実現します。Business-to-Business (B2B) のビデオコラボレーションを可能にし、リモートワーカーや自宅ワーカーの生産性を向上させ、サービスプロバイダーによる顧客へのビデオ通信の提供を可能にします。このアプリケーションは、すべての SIP デバイスと H.323 デバイス向けの各種の標準規格に準拠し、かつ、セキュアなファイアウォールトラバーサルを通じて安全に実行します。その結果、組織は、従業員の生産性の向上や、パートナーと顧客とのコミュニケーションの強化からメリットを得ることができます。

VCS Expressway は、ファイアウォールの背後のエンドポイントが、メディアを通過させることができるパスを検出し、これらのパスをそれぞれ経由するピアツーピア接続を確認した後に

最適なメディア接続パスを選択できるインテリジェントなフレームワークを使用します。これにより、企業のファイアウォールを再設定する必要がなくなります。

Expressway-E は高い信頼性と拡張性を備えており、マルチベンダーのファイアウォールをサポートし、SIP プロトコルでも H.323 プロトコルでも、任意の数のファイアウォールを通過できます。

## 標準機能

Expressway には次の機能が標準で装備されています。

- 別途 VPN クライアントを用意する必要のない、セキュアなファイアウォールトラバーサルとリモートワーカー向けの Cisco Unified Communications Manager へのセッションベースアクセス
- エンドポイントの登録サポート。
- SIP レジストラ（ルームまたはデスクトップ SIP プロキシが必要です。SIP プロトコルと H.323 プロトコルは、新しいインストールではデフォルトで無効になり、**[設定 (Configuration)]** > **[プロトコル (Protocols)]** の **[登録ライセンス (Registration licenses)]** から有効にできます）。
- SIP と H.323 をサポート（SIP/H.323 のインターワーキングを含む）
- IPv4 と IPv6 をサポート（IPv4/IPv6 のインターワーキングを含む）
- TURN リレーライセンスが必要です（TURN relay licenses）
- 高度なネットワーキング
- デバイスのプロビジョニングと FindMe サービス
- H.323 ゲートキーパー
- QoS タギング
- コール単位と総使用率ベースの両方で帯域幅を管理（ローカルサブゾーン内でのコールと外部システムおよびゾーンへのコールに対して個別に設定が可能）
- 使用可能な帯域幅を超えたコールに対する自動ダウンスピードのオプション
- DNS を経由する URI ダイヤリングおよび ENUM ダイヤリングによるグローバルな接続
- リッチメディアセッション（RMS）のサポート
- 最大 2,000 の一致を含む 1,000 の外部ゾーン
- 1,000 のサブゾーン、および最大 3,000 のメンバーシップルールのサポート
- プレフィックス、サフィックス、および正規表現を使用した柔軟性のあるゾーン設定
- スタンドアロンの Expressway として機能したり、または他の Expressway やゲートキーパー、SIP プロキシなどの他のシステムとの隣接が可能

- 最大6つの Expressway でのクラスタ化による n+1 の冗長性の提供と、最大4倍の個別キャパシティの提供が可能
- 最大6つの Expressway でのクラスタ化による n+2 の冗長性の提供と、最大4倍の個別キャパシティの提供が可能。
- 単一番号のダイヤリング機能やネットワークフェールオーバー機能用のインテリジェントなルートダイレクタ
- エンドポイントの認証オプション
- どのエンドポイントを登録できるようにするかを制御
- コールポリシー（アドミニストレータポリシーとも呼ぶ）（CPL のサポートを含む）
- 外部ポリシー サーバのサポート
- Cisco TelePresence Management Suite 13.2 以降で管理が可能
- Active Directory 認証
- Cisco Unified Communications Manager と Nortel 通信サーバ用に事前設定されたネイバーズンのデフォルト
- 初期設定にシリアルポートを使用する組み込みセットアップウィザード
- Web インターフェイスまたは SSH を使用したシステム管理。CEnnnn 物理アプライアンスでは CIMC ポート経由でシステムを管理
- 侵入からの保護

## 他の Cisco 製やサードパーティ製のソフトウェアは、Expressway にインストールしない

Cisco では、明示的に指定しない限り、他の Cisco 製またはサードパーティ製ソフトウェア、アプリケーション、または Expressway のエージェント（VMや物理アプリケーション）のインストールはサポートしていません。Expressway 以外の製品により、プログラムのコードが破損する可能性があるため、インストールしてはいけません。

## ハードウェア アプライアンスおよび仮想マシンのオプション

Expressway はオンプレミス アプリケーションやクラウドアプリケーションをサポートし、専用のアプライアンスまたは仮想化されたアプリケーションとしてVMware上で使用でき、さらに Cisco Unified Computing System（Cisco UCS）プラットフォームもサポートします。

### 仮想マシンのオプション

Expressway での仮想アプリケーションの導入には、次の3つのタイプがあります。

- Small (Cisco Business Edition 6000 またはサポートされている VMware ESXi プラットフォームは、必要最低限のハードウェア仕様に準拠しています)
- 中 (標準インストール)
- 大 (高パフォーマンスと拡張性機能)

[Expressway 設置ガイドページ](#)の『Cisco Expressway 仮想マシン設置ガイド』を参照してください。

### ハードウェア CE シリーズのアプライアンス

Expressway は、UCS ハードウェア ベースの専用 CE シリーズのアプライアンスとして使用できます。たとえば、UCS C220 M5L ベースの CE1200 アプライアンスは中容量または大容量の Expressway として動作します。



(注) CE1200 アプライアンスでは、Cisco VCS シリーズはサポートされません。

### デフォルトのシステム サイズの変更

Expressway-E として導入されたアプライアンスの場合は、アプライアンスのデフォルトのシステムサイズを手動で [大 (Large)] から [中 (Medium)]、またはその逆に変更できます。この機能が導入された理由は、1 Gbps の NIC (SFP モジュール) を搭載し、中規模システムとして設定されたアプライアンスでのメディアトラバーサル用の逆多重化ポートでの問題を軽減するためです。

アプライアンスのサイズを変更するには、[システム (System)] > [管理設定 (Administration settings)] ページに移動して、[展開設定 (Deployment Configuration)] リストから必要なサイズを選択します。

### インストールに関する情報

[Expressway 設置ガイドページ](#)の『Cisco Expressway CE1200 アプライアンス設置ガイド』を参照してください。

## 制限事項

### Gbps の NIC 逆多重化ポートを搭載した中規模アプライアンス

1 Gbps の NIC を使用する中規模アプライアンスを X8.10 以降にアップグレードする場合、Expressway/Cisco VCS が、システムを自動的に大規模システムに変換します。これは、Expressway-E/Cisco VCS Expressway は、中規模システム用に構成された逆多重化ポートではなく、大規模システム用のデフォルトの逆多重化ポート (36000 ~ 36011) で多重化 RTP/RTCP トラフィックをリッスンすることを意味します。この場合、ポート 36000 ~ 36011 はファイアウォールで開かれていないため、Expressway-E/Cisco VCS Expressway はコールをドロップします。

## 回避策

X8.11.4 から、[システム (System)] > [管理設定 (Administration settings)] ページ ([展開構成 (Deployment Configuration)] リストから [中 (Medium)] を選択) を使用して、システム サイズを手動で [中 (Medium)] に戻すことができます。

X8.11.4 より前の回避策は、ファイアウォール上の大規模システムのデフォルトの逆多重化ポートを開くことです。

# このマニュアルについて

このガイドでは、Expressway のさまざまな特徴、サービス、および機能について説明しています。十分な機能を備えた Expressway のバージョンを想定しているため、詳述したすべての項目が導入時にサポートされていない場合があります。

このガイドは、Cisco Expressway シリーズの製品にのみ適用されます。Cisco VCS の詳細については、[Cisco TelePresence ビデオ通信サーバの管理および運用ガイド](#) ページの「X12.5.x Cisco VCS 管理者ガイド」を参照してください。

Expressway のほとんどの設定タスクは、Web ユーザーインターフェイスまたはコマンドラインインターフェイス (CLI) を介して実行できます。このマニュアルでは主に Web ユーザーインターフェイスの使用方法について説明します。一部の機能は CLI を介してのみ使用でき、これらは関連する場合に説明されています。

Web ユーザーインターフェイスの方向は、遷移するページの**名前**に続く [メニュー (Menu)] > [サブメニュー (Submenu)] のフォーマットで表示されます。

CLI コマンドを次の形式で示します。

```
xConfiguration <Element> <SubElement>  
xCommand <Command>
```

## 変更履歴

表 1: 変更履歴

日付	変更内容	理由
2023 年 6 月	X14.3 の初版。 <ul style="list-style-type: none"><li>「Expressway のキャパシティとサイジング」の章の次の表「スタンドアロンシステムのキャパシティガイドライン、クラスタ化システムのキャパシティガイドライン、および MRA の高速パス登録（登録のキャッシング最適化）」を更新。</li><li>「クラスタリングとピア」の章から、表、スタンドアロンシステム、クラスタ化システムのキャパシティガイドライン、および MRA（登録のキャッシング最適化）の高速パス登録を削除。詳細について、「Expressway のキャパシティとサイジング」の章へのリンクを追加。</li><li>楕円曲線デジタル署名アルゴリズム（楕円曲線 DSA）証明書のサポート、コマンドラインインターフェイスの更新</li><li>RMS ライセンスを使用せずに米国の自死防止ホットライン（988）に通話をルーティングする</li><li>新規インストールとアップグレードの SIP TLS DH キーサイズのデフォルト値を 2048 に設定する</li></ul>	X14.3 リリース
2022 年 8 月	再発行済み X14.2。 置き換えられたバグ識別子	X14.2 リリース

日付	変更内容	理由
2022年8月	<p>X14.2 で最初に公開されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• スマートライセンスエクスポートコンプライアンス - エンドポイントへの暗号化シグナリングセッション数を 2500 に制限</li> <li>• 新規 REST API - CDB Rest API アクセス - CDB REST API アクセスの有効化/無効化</li> <li>• TLS 検証モード：デフォルトでサーバー証明書の検証を有効化</li> <li>• TLS 1.3 対応</li> <li>• ECDSA 暗号を RSA より優先</li> <li>• xCommand FIPS を使用する別の方法</li> <li>• 電子メール通知の削減</li> <li>• XCP ルーティングテーブル</li> <li>• 4+1 および 5+1 冗長モデルのサポート</li> </ul>	X14.2 リリース
2021年7月	<p>X14.0.2 の更新。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「証明書の要件」項を更新。トラフィックサーバーが証明書の検証を強制する</li> <li>• 新規 REST API - ステータス - fail2banbannedaddress</li> <li>• 自動作成された CE ゾーンステータス</li> </ul>	X14.0.2 リリース
2021年6月	<p>X14.0.1 用に更新。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• いくつかのセキュリティ関連の機能拡張を更新し、誤ったトラバーサルゾーンを使用する MRA 登録の問題を修正</li> <li>• 新しい REST API - アラーム - 表示と確認、SNMP 構成</li> </ul>	X14.0.1 リリース
2021年5月	表「スタンドアロンキャパシティのガイドライン - 単一 Expressway」の CE1200 の MRA 登録（プロキシ）値を変更。	ドキュメントの訂正
2021年4月	X14.0 の初版。	X14.0 リリース
2020年12月	X12.7 の更新。	X12.7 リリース



日付	変更内容	理由
2020年10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前設定済みのゾーンで、日付の設定の欠落および古い設定を更新します。</li> <li>HSMについて重複しているコンテンツを削除します。</li> <li>外部またはサードパーティ製のゲートキーパが、RMSライセンスを使用する場合の意味を明確化します。</li> </ul>	ドキュメントの訂正
2020年10月	事前設定済みのゾーンで、日付の設定の欠落および古い設定を更新します。	ドキュメントの訂正
2020年10月	<p>X12.6.4 メンテナンスリリースの更新（ソフトウェア バグ ID <a href="#">CSCvv92477</a> の修正 - H.323-SIP インターワーキング用に設定可能な DH キー長）。</p> <p>厳格なパスワードを適用すると、X12.6以降、ローカルの管理者アカウントに適用されるのではなく、すべてのローカルで管理されているアカウントに適用されるという反映を反映する「パスワードセキュリティの設定」トピックの変更。</p>	X12.6.4 メンテナンスリリース/ドキュメント修正
2020年8月	X12.6.2 メンテナンス リリースを更新。	X12.6.2 メンテナンス リリース
2020年7月	ロギングと有用性に関連したコンテンツを再構築し、旧 Expressway Serviceability Guide を含む、このガイドに統合されたコンテンツを統合します。また、トラブルシューティングおよび診断情報を独自の章に再組み込みします。	ドキュメントの再編成
2020年7月	MRA 登録数を含む X12.6.1 メンテナンスリリースの更新。Expressway-E TURN サーバは、汎用 STUN サーバとして機能しなくなりました。	X12.6.1 メンテナンス リリース
2020年6月	STUN パケット内の IP アドレスの不一致が発生した場合について説明するため、「ファイアウォールトラバース」項を更新します。	ドキュメントの説明
2020年6月	X12.6 の更新で、Web UI に表示されない場合は、「[アプリケーション (Applications)]」メニューを復元するプロセスを追加します。	X12.6 リリース
2020年2月	<p>「Kariの法則」を含むX12.5.7メンテナンスリリースの更新。</p> <p>(注) X12.5.7は廃止され、X12.5.9に置き換えられました。</p> <p>CE1200 アプライアンスのオプションキーを明確化。</p>	X12.5.7 メンテナンス リリース

日付	変更内容	理由
2020年1月	クラスタライセンスの使用方法和キャパシティのガイドラインセクションを更新。小規模VMのクラスタからキャパシティは得られないことを明確化。	ドキュメントの訂正
2019年12月	製品に他のソフトウェアをインストールしないことを明確化。VMサイズフィールドの場所を修正。	ドキュメントの説明 ドキュメントの訂正
2019年11月	X12.5.6 メンテナンス リリースを更新。	X12.5.6 メンテナンス リリース
2019年7月	X12.5.4に関する内容を更新。X8.6.x以降のソフトウェア上のシステムを12.5.4以降にアップグレードする必要がないため、リリース キーへの参照を削除。  「ネットワーク サービス」セクションの「「HTTP リクエストをHTTPS にリダイレクト」」のデフォルト値の誤りを修正。CSCvq39362を参照してください。	X12.5.4 リリース
2019年6月	RMSライセンス消費テーブルが更新され、RMSライセンスを消費するシナリオのみが含まれるようになりました。	ドキュメントの訂正
2019年5月	Meeting Server のロードバランシング設定に関する説明で、488 レスポンス コードへの誤った参照を修正。	ドキュメントの訂正
2019年4月	X 12.5.2 メンテナンス リリースの更新 (VMware ESXi プラットフォーム上で仮想化された小規模 VM のサポートが含まれています)。	X12.5.2 メンテナンス リリース
2019年3月	X12.5.1 メンテナンス リリースを更新。	X12.5.1 メンテナンス リリース
2019年2月	表「「同時にホストできるサービス」」を「概要」セクションに復帰。	ドキュメントの訂正
2019年1月	X12.5 の更新。	X12.5 リリース
2018年12月	X8.11.4 の表題を変更 (実質的な更新なし)。CSCvn73111 の B2BUA コール ステータスに関するセクションを調整。	X8.11.4 メンテナンス リリース

日付	変更内容	理由
2018年10月	X8.11.3 メンテナンス リリースを更新。	X8.11.3 メンテナンス リリース (破棄)
2018年9月	Webex と Spark プラットフォームのリブランド、CE1200 アプライアンス、および X8.11.1 リリースに応じて更新。	X8.11.1 リリース (破棄)
2018年7月	X8.11 の更新。	X8.11 リリース (破棄)
2017年7月	X8.10 の更新。	X8.10 リリース
2017年1月	全般的な訂正と更新。新しい機能を追加。	X8.9.1 メンテナンス リリース
2016年12月	新しい機能と全般的な訂正。	X8.9 リリース
2016年9月	新しいコールポリシールールの設定を含むヘルプと管理者ガイドの更新。	X8.8.2 メンテナンス リリース
2016年7月	MRA の概要を訂正および Xconfig SIP Advanced CLI コマンドを追加。	X8.8 ドキュメントの訂正
2016年6月	X8.8 の更新。	X8.8 リリース
2016年4月	全般的な訂正と更新。新しい機能を追加。	X8.7.2 メンテナンス リリース
2016年2月	全般的な訂正と更新。マニュアルの変更履歴 (この表) を追加。DNS ゾーンパラメータとアラームリファレンスを更新。	X8.7.1 メンテナンス リリース

## トレーニング

トレーニングはオンラインおよびシスコ指定のトレーニング会場で受講できます。当社が提供するすべてのトレーニングの詳細およびトレーニング オフィスの場所については、[www.cisco.com/go/telepresencetraining](http://www.cisco.com/go/telepresencetraining) を参照してください。

## 用語集

TelePresence 用語の用語の用語集は、<https://tp-tools-web01.cisco.com/start/glossary/>から参照できます。

## アクセシビリティ通知

シスコは、利用しやすい製品およびテクノロジーの設計および提供に取り組んでいます。

Cisco Expressway の Voluntary Product Accessibility Template (VPAT) は、ここで入手可能です。

[http://www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/legal\\_regulatory/vpats.html#telepresence](http://www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/legal_regulatory/vpats.html#telepresence)

アクセシビリティの詳細については、次を参照してください。

<http://www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/index.html>

## 関連資料

表 2: 関連ドキュメントとビデオへのリンク

サポート ビデオ	Cisco TAC エンジニアから提供された一般的な Expressway 設定手順に関するビデオは、 <a href="#">Expressway/VCS スクリーンキャストビデオ リスト</a> ページで入手できます（「Expressway ビデオ」を検索）。
仮想マシンのインストール	<a href="#">Expressway 設置ガイド</a> ページの『Cisco Expressway 仮想マシン設置ガイド』
物理アプライアンスのインストール	<a href="#">Expressway インストール ガイド</a> ページの『Cisco Expressway CE1200 アプライアンス インストール ガイド』
シングルボックスシステムの基本設定	<a href="#">Expressway 設置ガイド</a> ページの『Cisco Expressway レジストラ導入ガイド』
ペアリングされたボックスシステムの基本設定（ファイアウォールトラバース）	<a href="#">Expressway 基本設定ガイド</a> のページの『Cisco Expressway-E および Expressway-C 基本設定展開ガイド』
管理およびメンテナンス	[ <a href="#">Expressway 維持操作ガイド (Expressway Maintain and Operate Guides)</a> ] ページ（有用性情報を含む）の『Cisco Expressway 管理者ガイド』
クラスタリング	<a href="#">Expressway コンフィギュレーションガイド</a> ページの『Cisco Expressway クラスタの作成とメンテナンス導入ガイド』
証明書	<a href="#">Expressway コンフィギュレーションガイド</a> ページの『Cisco Expressway 証明書の作成と使用導入ガイド』

ポート	<a href="#">Expressway コンフィギュレーションガイド</a> ページの『 <i>Cisco Expressway IP</i> ポートの使用コンフィギュレーションガイド』
ユニファイド コミュニケーション	<a href="#">[Expressway 構成ガイド (Expressway Configuration Guides)]</a> ページの「 <i>Cisco Expressway</i> 経由のモバイルおよびリモートアクセス」
Cisco Meeting Server	<a href="#">Expressway コンフィギュレーションガイド</a> ページの『 <i>Cisco Expressway</i> による <i>Cisco Meeting Server</i> 導入ガイド』  <a href="#">[Cisco Meeting Server プログラミングガイド (Cisco Meeting Server Programming Guides)]</a> ページの『 <i>Cisco Meeting Server API</i> 参照ガイド』  その他の Cisco Meeting Server のガイドは、 <a href="#">Cisco Meeting Server コンフィギュレーションガイド</a> ページに用意されています。
Cisco Webex ハイブリッドサービス	<a href="#">ハイブリッドサービス ナレッジ ベース</a>
Cisco Hosted Collaboration Solution (HCS)	<a href="#">HCS お客様用資料</a>
Microsoft インフラストラクチャ	<a href="#">Expressway コンフィギュレーションガイド</a> ページの『 <i>Cisco Expressway</i> および <i>Microsoft</i> インフラストラクチャ導入ガイド』  <a href="#">[Expressway 構成ガイド (Expressway Configuration Guides)]</a> ページの「 <i>Cisco Jabber and Microsoft Skype for Business Infrastructure Configuration Cheatsheet</i> 」
REST API	<a href="#">Expressway コンフィギュレーションガイド</a> ページの『 <i>Cisco Expressway REST API</i> サマリー ガイド』（API が自己文書化されている高レベル情報のみ）
MultiWay 会議	<a href="#">Expressway コンフィギュレーションガイド</a> ページの『 <i>Cisco TelePresence Multiway</i> 導入ガイド』

## サービスセットアップウィザードについて（サービス選択ページ）

サービスセットアップウィザードを使用すると、環境で Expressway を選択した目的で簡単に設定し、Web ユーザーインターフェイスを簡素化します。ウィザードを実行して初期設定を実行する場合と同様に、いつでもサービスの選択ページにアクセスできます（[\[概要 \(Overview\)\]](#) > [\[概要 \(Overview\)\]](#)）。サービスセットアップウィザードの使用法についての詳細は、[Expressway 設定ガイド](#) ページの『*Cisco Expressway-E* および *Expressway-C Basic* 設定導入ガイド』を参照してください。

図 1: サービスセットアップウィザード - サービス選択ページの例

453645



(注) スマートライセンスを使用する場合は、サービスの選択ページ/ウィザード (Expressway を VCS 製品に変換する) から [シリーズ (Series)] 設定を変更できません。代わりに、このプロセスは工場出荷時の状態にリセットして開始する必要があります (VCS ではサポートされていないため、スマートライセンスを無効にする)。この例で示す他の設定のいくつかは、スマートライセンスには不要であり、スマートライセンスを使用する Expressway のウィザードには表示されません。

## 同時にホストできるサービス

サービスによっては、互換性がないために同時に選択できないものがあります。次の表に、サービスの互換性マトリックスを示します。このマトリックは、システムまたはクラスターで同時に使用できるサービスを示しています。

表 3: 同時にホストできるサービス

	Cisco Webex ハイブリッドサービス (コネクタ)	モバイル & リモートア クセス	Jabber	Microsoft ゲートウェ イサーバ	登録	CMR Cloud	企業間取引 コール (ハ イブリッド コールサー ビスを含 む)
Cisco Webex ハイブリッドサービス (コネクタ)	Y	N	N	N	N	Y	Y
Mobile & Remote Access および/または (X8.9 から) Meeting Server Web プロキシ	N	Y	N	N	Y	Y	Y*

	Cisco Webex ハイブリッドサービス (コネクタ)	モバイル & リモートア クセス	Jabber	Microsoft ゲートウェ イサーバ	登録	CMR Cloud	企業間取引 コール (ハ イブリッド コールサー ビスを含 む)
Jabber Guest サービス	N	N	Y	N	Y	Y	Y
Microsoft ゲートウェイ サービス	N	N	N	Y	N	N	N
レジストラ	N	Y	Y	N	Y	Y	Y
CMR Cloud	Y	Y	Y	N	Y	Y	Y
企業間取引コール (ハイ ブリッドコールサービス を含む)	Y	Y*	Y	N	Y	Y	Y

### 表の見方

Y：はい。これらのサービスは同じシステムまたはクラスタでホストできます

N：いいえ。これらのサービスは同じシステムまたはクラスタでホストできません

### ルール (Rule)

- ハイブリッドサービス コネクタは、コール サービスに使用されるトラバーサル ペアの Expressway-C と共存できますが、ユーザ数に制限があります。
- \* ハイブリッドコール サービス (または B2B) トラバーサル ペアも MRA に使用する場  
合、ハイブリッドサービス コネクタを別個の Expressway-C 上に配置する必要があります。  
これは、MRA 用に使用されている Expressway-C 上でホストされているコネクタは、  
シスコではサポートすることができないためです。
- Microsoft ゲートウェイ サービスには、専用の VCS Control または Expressway-C (ヘルプと  
ドキュメントでは「Gateway VCS」または「Gateway Expressway」と呼ばれます)  
が必要です。
- Jabber GuestはMRA (技術的な制約を使用できません)
- 現在、MRA は IPv6 専用モードではサポートされません。同じ Expressway トラバーサル  
ペアで IPv6 B2B コールと IPv4 MRA を共存させる場合、Expressway-E と Expressway-C を  
両方ともデュアル スタック モードにする必要があります。





## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。